

「感染症対策研修会」2日、津山市総合福祉(美作保健所主催)が会館(山北)で開かれ、



感染症対策を学ぶ社会福祉施設職員ら

同保健所管内の社会福祉施設職員ら約1300人が感染症胃腸炎などの予防と発生時の対応について熱心に学んだ。県環境保健センター保健科学部の藤井理津志部長が、胃腸炎起因ウイルスのノロウイルス、サポウイルス、ロタウイルスなど主なものについて詳しく説明。発生時の汚物除去や清掃、消毒について「マスク、使い捨てゴム手袋をはめて処理し、次亜鉛素酸ナトリウム液を散布後しばらく放置し、ふき取る」など具体的に示し、感染が広

就学前教育・保育カリキュラム 12年度内に策定 津山市 作成委で協議着手

「小1プロブレム」への対応

津山市は、「就学前教育・保育カリキュラム」を2012年度内に策定する。就学後の適応ができない「小1プロブレム」への対応など実践的内容を盛り込むといい、有識者と保育園、幼稚園の代表者でつくる作成委員会(委員長、松岡信義美作大学教授)で協議に着手した。

カリキュラムの素案は、0歳から小学校入学までの発達過程を7段階に区分。各段階ごとに▽発達の主な特徴▽教育の狙い▽経験させたい内容▽保育者の援助▽家庭・地域との連携について具体的にまとめる。

策定委は10月末に立ち上げ、先月25日に第2回委員会を山北のすこやか・こどもセンターで開催。育てたい子ども像を「命と自然を尊ぶ子」「豊かな情操と賢さを身につけた子」など4項としたほか、

生活視点のまちづくりへ

「中心商店街再生」講演会

アドバイザー 服部年明さん 活性化策を紹介

まちづくり講演会

(津山商工会議所主催)が2日、山下の津山商工会館で開かれ、中心市街地商業活性化アドバイザーで全国商店街支援センター取締役の服部年明さんが、「商業視点の中心市街地活性化から、生活視点の

今後、来年2月から約1年間に委員会6回、作業部会8回を開き、構成メンバーの経験を反映させた内容を目指す。

まちづくりへシフトさせて地域価値を高めてほしい」と約100人に語りかけた。写真。テーマは「地方都市の空洞化の進む中心街の再生事業」不動産の所有と利用の分離による中心商店街再生手法」。長野市は冬季五輪開催から2年後の2000年、中央通りの中間点に位置する長野そごうとタイイーが相次いで撤退。これに伴い、衰退傾向にあった商店街の空洞化が一気に進んだ。

服部さんは市長からの要請でTMO(まちづくり機構)のタウンマネジャーに就任。「中心市街地の衰退と価値低下は地域経済と市の重要な税収源に大きく影響を与える」な

がらないよう施設全体での対策を徹底するよう注意を促した。また、風邪とインフルエンザの症状の違いを述べた後、インフルエンザは「5歳以下の乳幼児では脳炎、脳症



イナビル(同)、ラビアクタ(点滴静注薬)を挙げた。続いて、美作保健所の發坂耕治所長による「結核の理解と発生時の対応について」の講演があった。

どと訴え、官民協働の再生事業に取り組んだ。「住・職・福・学・商・憩・観」の各種機能と「文化・歴史」を重ね合わせてまちの魅力を高める、戦略的中心市街地活性化策を具体的に紹介した。

また、新潟県上越市の共同ビル再生、長野県佐久市の商店街活性化だ。

3 園長

本年度社会福祉厚生労働大臣受けた津山市の園長が1日、宮市長を訪問し、報告した。

「正しい国際ソ

「世界エイズの1日、国際ソリスト津山(中子会長)は、大R津山駅で「Hエイズ撲滅キャンペーン」を行い、市正しい知識の普及を訴えた。

今年で4回目プチミストのメをはじめ、同会ンサーとして支いる勝間田高校プと美作大学とマソサエティの学生の計24人が



地元住民の身近な存在として親しまれ、信仰の地にかげられていた鯛口